2023年6月18日例会

**「愛の重要性：人類愛から神聖な愛へ」**

**スワーミー・ディッヴィヤーナターナンダ**

愛は強力な力です。

愛のあるところに恐れはありません。

愛はあらゆる種類の恐れを追い払う、と主イエスは言いました。純粋で無私の愛は神聖な力です。

「信仰、希望、愛という三つの美徳のうち、愛が最も偉大である」と聖パウロは言いました。

愛は私たちの日常生活の中で非常に一般的な概念です。親は子供を愛し、夫は妻を愛し、学者は自分の研究課題を愛し、農民は作物を愛し、弁護士は職業を愛します。つまり、愛はさまざまな形であらわれているのです。愛は家族を育て、社会を結びつけます。愛が家族から国家へと広がると、その愛はより深く、より広くなります。インドでは、イギリスからの独立闘争の最中に、非常に多くの若者が祖国の自由という大義のために命を落としました。これらはすべて祖国への愛に根ざしたものでした。日本人の愛国心についてスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「日本人の自らに対する信頼と祖国への愛…日本人は祖国のためにすべてを犠牲にする覚悟があるので偉大な民となったのだ」と言いました。愛は私たちの人生を動かし続ける重要な要素です。しかし愛することは簡単なことではありませんし、本当の愛は珍しいです。

「愛」という言葉は私たちの日常生活で非常によく使われます。しかし、誰もが子供の頃から親の愛を受ける、という幸運に恵まれているわけではありません。愛情不足が原因で、成長すると多くの子供たちが犯罪者になってしまいます。その一方、愛、同情、思いやりを示すことによって、人は他者を変えることができます。このことに関する物語を一つ言います。

ある心理学の教授がアメリカのボルチモアにあるスラム街に研究チームを派遣し、そこの若者たちについて調査を行いました。約200人の子供たちにインタビューした結果、恐ろしい結果が出ました。報告書によると、その子供たちのほとんどは成長すると必ず犯罪者になる、というのです。ちょうど 20 年後、同じ教授が別のチームを同じ場所に派遣したところ、200 人の子供たちのうち 180 人を特定することができました。そして再び彼らにインタビューしてみると、驚いたことに、20年前の研究の予測は間違っていたことが判明しました。犯罪者になるだろうと予測された子供たちのほとんどは、責任ある市民になっていたのです。そこで調査チームが原因を調べてみると、シーラ・オルーキという教師がこれら200人の幼い子供たち全員の世話をしていたことが分かりました。彼女は彼ら一人一人の世話をし、彼らの問題に耳を傾け、それぞれの長所を見つけて、彼らの人生を具体化する助けをました。彼女は愛をもとに教えたのです。しかし、必要に応じては、手に負えない子供を罰するために愛のムチを使うこともありました。ゆっくりと、これらすべての子供たちは彼女の愛の軌道のもとに置かれ、その愛が彼らの人生を形成しました。もし彼女の愛がなかったら、彼らは犯罪者になっていたでしょう。

愛は家族を結びつけますが、愛の不足はしばしば家族を崩壊します。ここでは二つの家族の例を紹介します。一つ目の家族は、夫婦と子供 2 人です。彼らは非常にリッチな富裕層で、国際都市で宮殿のような建物に住んでいます。夫が朝起きたときに、お茶を淹れてほしくて妻を起こそうとしますが、妻は起きません。夫は自分の運命を呪いながら自分でお茶を淹れます。彼は子供たちを起こそうとしますが、それも無駄に終わります。子どもたちは「寝ている邪魔をしないでよ」と文句を言います。学校が始まっても、子供たちは学校が好きではありません。子どもたちは「毎日同じで退屈なんだもん」と文句を言います。彼らは「朝ごはん、美味しくない」と母親を責め、母親は夫が家庭に気を配らなかったことを責めます。父親は実は大企業を経営していて、顧客に対してとても親切なのですが、妻と子供たちには無礼です。一方、子供たちは親に対して心を開くことができません。つまり、ある意味では、家の全員が何らかの不満を抱えているということです。表面的には、まったく快適な環境で生活をしていますが、彼らの生活には、最も重要な要素である愛が欠けています。

もう一つの家族があります。彼らは非常に貧しく、生活のために非常に一生懸命働かなければなりません。粗末だが清潔な家に住んでいます。みんな早起きで、妻が家族のために食事を作っているとき、夫も手助けをします。子供たちは授業の準備をし、家の中庭を掃除します。彼らは誠意をもって学び、一生懸命働きます。夕方には全員が一緒に座って、その日の出来事を語り合います。この家族は、それぞれが強い愛によって結ばれているので家庭円満です。このように、愛は家族生活の源泉です。

初めのうち、愛は自分の肉体、家、家族、職業、周りの大切な人びとの小さな輪、に限定されています。しかし、この愛はもっともっと広げることができます。愛の最大のあらわれは、全人類を抱きしめるほどにハートを広げた聖人に見られます。彼らの愛には人種、言語、国という境界はありません。近代では、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィー、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの並外れた人生があります。彼らの生涯からいくつかの例を挙げてみましょう。

ある人がスワーミー・ヴィッギャーナナンダに、「あなたはシュリー・ラーマクリシュナの何に惹きつけられたのですか」と尋ねました。ヴィッギャーナナンダジーは即座にこう答えました「その頃、私はシュリー・ラーマクリシュナの霊性の偉大さ、放棄、神への没入などのことは全く分かりませんでした。私が惹きつけられたのは、師の純粋な愛です」「師の愛は、それはそれは深いものでした。このような愛を私は両親、兄弟、友人からも受け取ったことがありませんでした」。シュリー・ラーマクリシュナの他の多くの弟子たちも同じ意見でした。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはよくシュリー・ラーマクリシュナについて、彼は「愛」の体現者だ、と言いました。

ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーは子供の頃、両親の家事を手伝っていました。ベンガルで大飢饉が起こったとき、彼女の父親は貧しいブラーミンでしたが、地元の貧しい人々に調理した食べ物（キチュリ）を配ることにしました。調理した食べ物を皿に盛るとき、幼いサーラダーは小さな手であおいで熱い食べ物を少し冷まし、食べやすいようにしました。妻となってからは、病気の夫の世話をし、遠くや近くから来る信者たちの世話をしました。実家で兄弟たちと住んでいたときは、昼夜を問わず家族のお世話をしました。時々、信者の家族が前触れもなしに突然やって来ることがありましたが、彼女は嫌がる素振りを少しも見せず、愛情を込めて彼らを受け入れ、寝床を作り、食べ物を作って提供したので、信者たちは心から寛ぐことができました。

信者の中には、イニシエーションを熱心に求めて彼女のところにやって来る者もいました。彼女は病気のときでさえも、喜んでイニシエーションを授けました。彼女には他者の罪を負い、他者のために喜んで苦しむ力がありました。毎日ジャパをすることができないと不平を言う人たちに対して彼女は「私が責任を負います。あなたは何もしなくてもいいです」と言いました。実際、彼女が他者のためにジャパをしている姿が見受けられました。多くの弟子たちが毎日の瞑想を怠ることを知ったからです。コルカタの非常に暑い季節に、彼女は布で体を覆い、何時間も信者からのプラナームを受けました。ホーリー・マザー・シュリー・サーラダー・デーヴィーはまさに愛の体現者だったのです。彼女にとって、全世界が彼女自身でした。他人など誰もいませんでした。彼女の愛は本当に普遍的なものだったので、信者も信者でない人も、良い子も悪い子も、カーストの低い人、貧しい人、教育を受けていない人、そして鳥や動物までもが彼女の限りない愛を受けました。彼女の愛は、子供たちの今生の幸福だけでなく、別の世にも向けられていました。スワーミー・アベダーナンダはサーラダー・デーヴィーへの有名な賛歌の中に次のように書きました。

スネーヘナ　バダナーシ　マノースマディーヤン

ドーシャーン　アシェーシャーン　サグーニー　カローシ

アーヘートゥナー　ノー　ダヤセ　サドゥシャーン

サヴァーンケ　グリヒートワー　ヤドイダム　ヴィシトゥラム

あなたは母の愛のやさしさで私たちの心を縛り、

私たちの欠点だらけの人生を良い性質に変えてくださる。

あなたは見返りを求めることなく、欠点ばかりの私たちに慈悲深い。

そしてありのままの私たちを受け入れ、あなたのひざの上にのせてくださる。これは本当に驚くべきことです。

（プラクリティ　パラナム　第9節）

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、一切を放棄した僧侶で、愛情深い母親のハートの持ち主でした。彼がシカゴの宗教議会で世界を揺るがす演説を行った日、自分の成功を振り返って自分が世界の頂点にいると感じていたでしょうか？　いいえ、それどころか、彼は貧しい祖国のことが心配で一晩中眠れませんでした。同胞たちが劣悪な環境にいることを思うと、豪華なホテルの部屋で眠ることなどできなかったのです。そして一日にまともな食事をする余裕すらない同胞の悲惨な状態を思い、涙を流しました。ベンガルが疫病に見舞われたときのことです。当時、救援活動の費用のための多額の寄付が集まることは考えられなかったので、彼はベルル・マトの土地を売却しようとさえしました。

もう一つの出来事は語る価値があります。スワーミージーはヴィッギャーナナンダジーと共にベルル・マトに滞在していたときのことです。ヴィッギャーナナンダジーはほとんどアラハバードにいましたが、たまたまベルル・マトに滞在していました。ある夜、ヴィッギャーナナンダジーは真夜中に目が覚めたので部屋の外に出ました。するとスワーミージーがベランダを行ったり来たりしているのが見えました。ヴィッギャーナナンダジーが「どうしてまだ起きていらっしゃるのですか？」と尋ねると、スワーミージーは「眠っていたら突然、誰かに揺さぶられたかのようで目が覚めたのだよ。そして感じたのだ、どこかが災難に見舞われ、人々が苦しくて泣いていると」。ヴィッギャーナナンダジーはスワーミージーの言葉の意味が分かりませんでした。しかし翌朝、新聞はフィジーの島で大規模な火災が発生し、数人が命を落としたことを報じました。

愛が非常に強力であるのと同じように、愛の反対である憎しみや嫉妬は私たちを弱くする力です。愛は縛り付け、嫉妬は分けます。愛は人を暗闇から引き上げ、憎しみは私たちを地獄の底に堕落させます。私たちの社会で見られる暴力のほとんどは、憎しみや嫉妬から生まれています。人間の敵のうち、憎しみと嫉妬は自らの敵とされています。それらは相互に関連しています。憎しみは相手だけでなく自分自身も焼き尽くします。他人を憎む人は、常にイライラして苦々しい気持ちを抱いています。その人は憎む相手に危害を加える機会を逃しません。二つの例を言います。

ある学校の教師は、その愛情深い性格ゆえに生徒たちから非常に愛され尊敬されていました。彼は校長先生にもしかるべき敬意を表しました。しかし校長は、その教師が生徒たちから人気があることにがまんできなかったので、教師の存在にイライラしていました。何年も一緒に過ごしていましたが、校長は愛情や敬意を持って彼に話しかけたことは一度もありませんでした。教師の人気が高まるほど、校長は彼に対して嫉妬心を抱くようになりました。数年後、校長はその教師を別の学校に異動させました。憎しみと嫉妬のせいで、校長はその先生の良いところを見つけることができなかったのです。

不眠、不安、極度の疲労に悩まされている中年女性が治療を求めて医師の診察を受けました。彼女は時々自殺を考えていたことも医師に告白しました。医師は最初、彼女の問題の背後にある原因を特定できませんでした。しかし、彼女を何度も診て質問を繰り返すうちに、彼女が本当は個人的な家族の問題のために自分の妹に対して極度の嫉妬を感じていることが分かりました。

その頃、偶然その女性の家を訪れた聖者が彼女に改善策を提案しました。聖者は、「神に委ね、『妹に対するこの嫌悪感から解放されますように』と心から神に祈りなさい」と言いました。女性は聖者のアドバイスに従い、心から祈ることで、彼女を内側から殺している暗闇から抜け出すことができました。言い換えれば、怒りと嫉妬という二つの敵を乗り越えるための救済策があるということです。祈りや瞑想とともに、日々の行為の中で無私を実践すれば、心から憎しみや嫉妬の感情を取り除くことができるのです。 愛の最高の顕現は、神への愛、つまり神聖な愛です。私たちが自分と自分の周りの小さな輪に対して抱いているこの愛を、もっともっと広げていくことができます。もし私たちがバクティを実践すれば、この愛は拡大します。なぜなら神はすべての存在の中に宿っているからです。ですので、神を愛することで、実はすべての存在を平等に愛することができるのです。バクティ派は、ナヴァダ・バクティという神に近づくための九つの方法を定めています。私たちは神を、父として、母として、友人として、あるいは配偶者として、さらには子供として、近づくことができます。そうして私たちが神との個人的な関係を築くことができれば、神とつながるのは簡単になります。

私たちはこのことをシュリー・ラーマクリシュナの生涯に見出すことができます。彼はただ切望することで、至福に満ちた聖母のビジョンを受け取りました。ヴリンダーバンの牛飼いの少年たちやアルジュナはシュリー・クリシュナに友人として近づきました。ヤショーダーはシュリー・クリシュナを自分の子供とみていましたし、ゴーピーたちは彼を最愛の人として愛しました。近代では、シュリー・ラーマクリシュナの信者の一人で、ゴパールの母と呼ばれるアゴルマニ・デーヴィーは、自分が選んだ神を幼い子供とみてお世話することで、人生に大きな変化が生じました。彼女は非常に質素な生活を送り、ジャパと瞑想に長い時間を費やしました。彼女が選んだ神は赤ちゃんゴーパーラでした。彼女の人生には、ゴーパーラを全身全霊で奉仕する以外には、何もありませんでした。そしてある日、赤ちゃんゴーパーラは実際に彼女の人生の中で生きた存在になったのです。彼女はゴーパーラがあちこちに走りまわったり、食べ物の供え物を食べたり、ベッドの横で眠っているのを見ることができました。彼女の選んだ神への愛はとても強かったので、主は自分自身を抑えることができず、実際に彼女の人生にやってきて、彼女を祝福しました。

霊性の求道者が神への強い愛を持つようになると、神は自分自身を抑えることができなくなります。彼は信者の呼びかけに応え、神聖で至福に満ちた姿のビジョンを授けます。その瞬間、信者に大きな変化が起こります。信者は「私」と「私のもの」という感覚をまったく失います。「未熟な私」が「熟した私」に溶け込みます。愛は、神の愛の中で、完成するのです。信者がその状態に達すると、偏見なくすべてを平等に愛することができるようになります。それが本当の愛です。しかし、その愛が本物かどうかを判断するには条件があります。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは、本当の愛の条件を次のように説明しました。

三角形には三つの角があります。愛の三角形の一角目は、真の愛人は取り引きをしない、ということをあらわします。真の愛人は、愛のために愛します。取り引きのあるところに、真の愛が存在するはずがありません。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは一つの例を示しました。ある王がジャングルにいる聖者を訪ねたときのことです、聖者の放棄、智慧、献身に深く感銘を受けた王は、聖者に「贈り物をしたいので宮殿に来てください。［私に恩恵を与えるために私から何かをお受け取りください］」と言いました。聖者は最初、「森からの恵みだけで必要なものは満たされています」といって断りました。しかし、繰り返し懇願された聖者は同意し、何日か経ってから王の宮殿を訪れました。宮殿に入ると、王が神に祈っているのが聞こえました「主よ、もっと子供をお与えください、もっと富をください！」。それを聞いた聖者が宮殿を立ち去ろうとすると、王は「マハーラージ、お待ちください。祈りを終えさせてください。それからあなたの世話をいたします」と叫びました。聖者は「物乞いから贈り物を受け取ることはできません。神に世俗的なものを乞うあなたは物乞いです』」と言いながら王の宮殿から出て行きました。

二角目は、愛は恐れを知らない、ということをあらわしています。多くの人は罰を恐れて神に祈ります。彼らは「神を恐れる信者」と呼ばれますが、それは本当の信仰ではありません。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダが示した例はこうです。ある母親が道を歩いていると、数匹の犬が吠えながら彼女追いかけてきたことを想像してください。彼女は身を隠す場所を見つけようとするでしょう。しかし、同じ女性が子供を膝に乗せているときに突然ライオンに遭遇したら、彼女は子供を守るためにためらうことなくライオンの口に入るでしょう。子供への愛によって恐怖が消えたのです。このように真の愛は恐れを知りません。

三角目は、愛は競争者を知らない、ということをあらわしています。誰もが自分なりの愛の理想を持っています。最も崇高なものを愛する人もいれば、低俗なものを愛する人もいるでしょう。愛の理想が大切なのは、愛人はそれを見るからです。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは言います「誰もが、『ジプシー女の顔を絶世の美女ヘレナだと思い込む［一］』という名言を真実だと認めています。見物人として脇に立っている男は、ここでの愛が見当違いであることに気づいています。にもかかわらず愛人は彼の［理想の女性像］ヘレナを見て、全然ジプシー女を見ません。ヘレナであれ、ジプシー女であれ、私たちの愛の対象は、実際には私たちの理想が形となったものなのです……男も女も崇拝するその理想は、彼ら自身の中にあります。誰もが自分の理想を外の世界に投影し、その前にひざまずくのです」。

終わり。

（※日本ヴェーダーンタ協会出版『バクティ・ヨーガ（愛の三角形の章）』を参照ください）

［一］シェイクスピア『真夏の世の夢』五幕一場